

DMX wireless III

取扱説明書

DMX wireless Operational Manual

この度は松村電機の製品をお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。
未長く安全にご愛用いただくために、
取付・設置およびご使用前には、
必ず取扱説明書をお読みください。
お読みいただいた後は大切に保管し、
必要なときに活用してください。




C O N T E N T S


| | |
|-------------------------------------|----|
| 安全上のご注意..... | 2 |
| 1.警告表示の注意喚起シンボルとシグナル用語..... | 2 |
| 取扱上の注意事項..... | 2 |
| ご使用前に..... | 7 |
| 操作説明..... | 8 |
| 1.各部の名称..... | 8 |
| 2.送信機の使用法..... | 8 |
| 設置方法..... | 8 |
| 接続方法..... | 9 |
| 3.受信機の使用法..... | 10 |
| 設置方法..... | 10 |
| 接続方法..... | 11 |
| 4.動作種別 固定CH動作・GROUP動作..... | 12 |
| 固定CH動作..... | 12 |
| GROUP動作..... | 12 |
| 5.DMX出力保持・非保持..... | 13 |
| DMX出力保持動作..... | 13 |
| DMX出力非保持動作..... | 13 |
| 6.同期・非同期..... | 14 |
| 同期動作..... | 14 |
| 非同期動作..... | 14 |
| 7.パケット転送..... | 15 |
| パケット転送動作..... | 15 |
| 非パケット転送動作..... | 15 |
| 8.LEDモニタの機能説明..... | 16 |
| 9.各種設定スイッチの機能説明..... | 17 |
| 10.DMXワイヤレスIII（本機）とII（旧機）の動作互換..... | 21 |
| 日常点検..... | 22 |
| 修理を依頼される前に..... | 22 |
| 有寿命部品 [交換部品] について..... | 23 |
| 基本仕様..... | 24 |
| 外形寸法..... | 24 |
| 弊社連絡先..... | 25 |

安全上のご注意

●警告表示の注意喚起シンボルとシグナル用語








【警告表示の注意喚起シンボルとシグナル用語の意味】

 **警告** ———— 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合、軽傷または物的損害が発生する頻度が高い場合。

 **注意** ———— 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う可能性が想定される場合、および物的損害のみの発生が想定される場合。

取扱上の注意事項

警 告

-  ●装置の本体質量に見合った取付金具を使用してください。
取付金具の選定を間違えると落下し、物的損害・けがの原因となります。
-  ●装置の取付・設置時は、電源コード及びDMXケーブルを照明器具に接触しないように取付てください。
接触していると火災の原因となります。
-  ●装置を分解したり改造しないでください。
火災・感電・故障の原因となります。
-  ●煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態のままで使用すると火災・感電の原因となります。
-  ●異常と思われるときはすぐにプラグを抜き、異常状態がおさまったことを確認してから原因を究明してください。
容易に原因の究明ができない場合は、弊社に修理を依頼してください。
-  ●落下防止ワイヤを必ずダボ取付金具に潜らせて受金具に掛けてください。
確実に取付けないと取付金具の破損により装置が落下し、物的損害・けがの原因になります。
-  ●ダボ締結ナットは緩みがないか日常保守点検してください。
確実に取付けないと取付金具の破損により装置が落下し、物的損害・けがの原因になります。



注 意

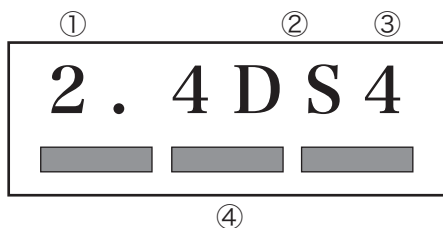
1. 「2.4GHz帯小電力データ通信システムにおけるご注意」

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、最寄りのサービスセンター、支店、営業所までお問い合わせください。（連絡先は本書巻末をご参照ください。）

2.現品表示

- 本製品には、以下に示す現品表示が記載されています。



- ① 「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備を表しています。
- ② 「DS」 : 変調方式がDS-SS方式であることを示しています。
- ③ 「4」 : 想定される干渉距離が40m以下であることを示しています。
- ④ 「■■■」 : 2.4GHz帯の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

3.その他注意事項

- 本製品は日本国内の法規に基づき設計されていますので、日本国内のみで使用してください。
- 本製品は無線を使用していますので、通信距離や通信誤りの発生頻度は設置環境によって大きく変化します。
- 同一周波数帯を使用している他の機器が近くにある場合、通信誤りが発生することがあります。
- 本製品を分解して修理、改造すると電波法に基づいた処罰を受けることがあります。絶対に行わないでください。
- 本製品の無線モデムには技術基準適合証明設備であることを示すラベルが貼付してあります。これを剥がさないでください。



注 意

4.設置・取付について

- 劇場演出空間内での作業に伴う装置の取付・設置・移動・撤収は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は間違いの原因となるおそれがあります。
- 装置は屋内用です。屋外に設置しないでください。
屋外で使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
- 直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等がないか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の設置・取付時は、不安定な場所に設置しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の設置・取付時には、装置本体の落下防止ワイヤを取扱説明書に従って正しく取付けてください。
確実に取付けないと取付金具の破損により装置が落下し、物的損害・けがの原因になります。
- 電源接続は、取扱説明書に従って確実に行ってください。
接続が不完全な場合は、接触不良により火災の原因となります。
- 電源コードを無理に引張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- 装置の移動は、入力電源を切ってから行ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。

5.使用前の準備について

- 装置の使用前に必ず取扱説明書または注意書をよくお読みください。
お読みいただいた後は大切に保管し、必要なときに活用してください。
- 装置の使用前の準備は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。未熟練者だけでの対応は間違いの原因となるおそれがあります。
- 装置の日常点検を実施してください。点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- 直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等がないか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の設置・取付時は、不安定な場所に設置しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の設置・取付時には、装置本体の落下防止ワイヤを取扱説明書に従って正しく取付けてください。
確実に取付けないと取付金具の破損により装置が落下し、物的損害・けがの原因になります。
- 電源接続は、取扱説明書に従って確実に行ってください。
接続が不完全な場合は、接触不良により火災の原因となります。
- 電源コードが無理に引張られてないか点検してください。
感電・故障の原因になります。
- 装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- 装置の上に灰皿・飲食物等を置かれてないか確認してください。
感電・故障の原因になります。



注 意

6.使用方法について

- 装置を取扱う場合は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は間違いの原因となるおそれがあります。
- 装置の本体質量に見合った取付金具を使用してください。
取付金具の選定を間違えると落下し、物的損害・けがの原因となります。
- 装置の設置・取付時には、装置本体の落下防止ワイヤを取扱説明書に従って正しく取付けてください。
確実に取付けないと取付金具の破損により装置が落下し、物的損害・けがの原因になります。
- 電源接続は、取扱説明書に従って確実に行ってください。
接続が不完全な場合は、接触不良により火災の原因となります。
- 装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の近くで放電灯（クセノン・HMI等）のオン/オフ操作を行わないでください。
装置の誤動作の原因になります。
- 装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- 電源コードを無理に引張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- 装置の上に灰皿・飲食物等を置かないでください。
感電・故障の原因になります。
- 交換部品は、製造業者に確認して製造業者指定の純正部品を使用し、確実に処置をしてください。
装置の火災・感電・故障の原因になります。
- 地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
未熟練者だけでの対応は、火災・感電・故障の原因になります。

7.保守・点検について

- 装置の日常点検を実施してください。
点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- 装置の点検（整備）は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
未熟練者だけでの対応は、火災・感電・故障の原因になります。
- 装置の点検・清掃時は、必ず入力電源を切ってください。
入力電源を切らないと感電するおそれがあります。
- 電源コードを無理に引張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- 電源コード、接続器は日常点検し、点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
感電・火災の原因となることがあります。
- 装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- 装置を安全に正常動作を維持するため、定期的に製造業者、専門業者の点検・調整を受けてください。
- 交換部品は、製造業者に確認して製造業者指定の純正部品を使用し、確実に処置をしてください。
装置の火災・感電・故障の原因になります。



注 意

8.異常時の処置について

- 煙が出たり、変な臭いがするなどの異常事態には、すぐに入力電源を切ってください。
火災・感電の原因になります。
- 装置の異常と思われるときには、異常の原因を究明してください。
容易に原因の究明ができない場合は、製造業者に修理依頼をしてください。
- 地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
未熟練者だけの対応は、火災・感電・故障の原因になります。
- 直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境に保管しないでください。
故障・絶縁不良の原因になります。
- 再使用するときは、点検を必ず行ってから使用してください。
火災・感電・故障の原因となるおそれがあります。
- 装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- 装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- 装置を安全に正常動作を維持するため、定期的に製造業者、専門業者の点検・調整を受けてください。
- 交換部品は、製造業者に確認して製造業者指定の純正部品を使用し、確実に処置をしてください。
装置の火災・感電・故障の原因になります。

ご使用前に

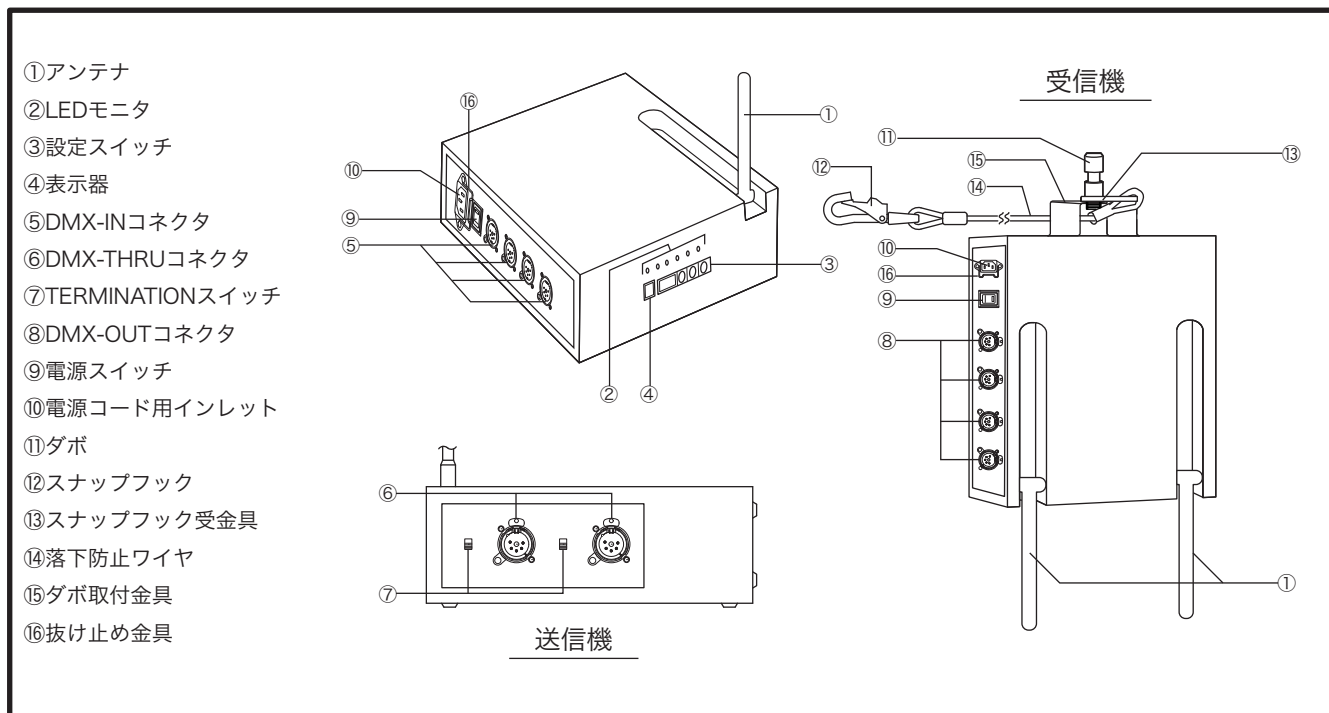
- DMXwirelessIIIを使用する前には、2.4GHz帯の周波数帯域の装置が使われていないことを確認してから使用してください。
同じ周波数の装置と同一エリア内で使用すると誤動作の原因となる可能性があります。
- 本システム（送信機、受信機）のDMX信号用ケーブルの接続コネクタは、以下のようになっていますので、配線系統を検討し、DMX信号ケーブルやDMX用スプリッターを必要に応じて準備してください。
送信機／入力用コネクタ（XLR5Pオス）4系統
受信機／出力用コネクタ（XLR5Pメス）4系統
- 送信機、受信機に電源を接続し、DMXテスターなどで動作確認を行ってください。

特長

- 信号ケーブルの配線工事や追加・仮設のケーブル引き回しなどを必要とせず、既設／仮設を問わずに調光操作卓からのDMX信号を各所の照明機材に伝送して制御することが可能です。
- パケット単位による無線転送で、複数のチャンネルを必要とする機器でも制御可能です。
- 無線チャンネル番号は表示器にて確認が可能です。
- 受信機の無線チャンネルの変更は自動設定。
グループ動作により、無線チャンネルは送信機のみ指定し、受信機は自動設定。

操作説明

<各部の名称>



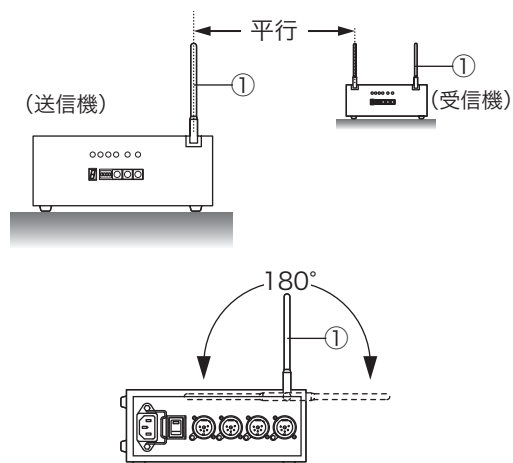
<送信機の使用方法>

■設置方法

1) 送信機を水平な場所に置き、アンテナを受信機のアンテナ①と平行になるように立ててください。

●送信機の設置場所は、受信機の見通せる場所に設置してください。

●アンテナ①は本体に対し180°までが可動範囲です。
無理をすると破損する場合があります。



■接続方法

- 1) DMXケーブルのメス側⑬を送信機のDMX-INコネクタ⑤ (DMX1～DMX4) の外周の突起に合わせて接続します。

●DMX1～DMX4を使用する場合は、制御する調光操作卓の系統を確認して接続してください。

- 2) DMX信号をDMXワイヤレスを経由して次の機器に亘る場合は、DMX-THRUコネクタ⑥を使います。
DMX-THRUコネクタ⑥を使用する場合は、TERMスイッチ⑦を [OFF] 側にしてください。

【注意】DMX1、2に対してだけTHRUがあります。

●DMX-THRUコネクタ⑥を使用しない場合は、必ずTERMスイッチ⑦を [ON] 側にしてください。
TERMスイッチ⑦が [OFF] の状態で使用するとDMX信号が不安定な状態で動作し、動作不良をおこす恐れがあります。

- 3) DMXケーブルのオス側を制御する調光操作卓のDMX信号出力コネクタに接続します。

- 4) AC電源コードの接続は、抜け止め金具⑬を開いた状態で電源コード用インレット⑩に電源コードのメス⑭を接続し、抜け止め金具⑬を閉じてしっかりと固定します。

- 5) 電源コードのオスプラグをAC100V電源に接続し、電源スイッチ⑨をONにしてください。

- 6) 設定スイッチ③でGROUP・CH・SPEED・MODEの設定確認をしてください。
(P.16～19「各種設定スイッチの機能説明」をご参照ください。)

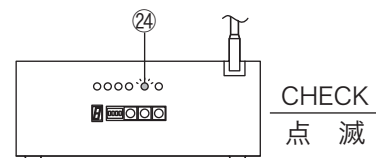
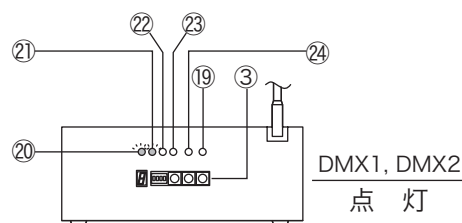
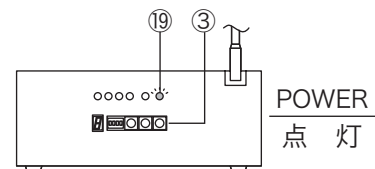
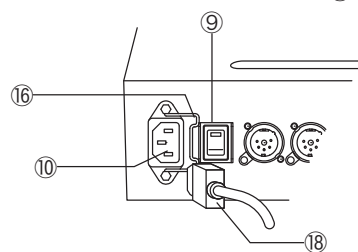
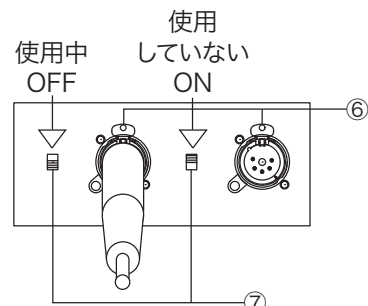
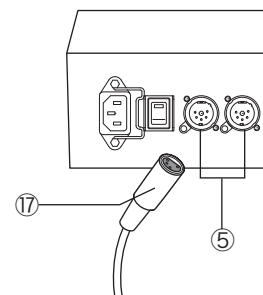
- 7) 電源の確認は、送信機のPOWER⑱ (緑LED) が点灯します。

- 8) DMX信号の出力の確認は、任意の制御機器 (調光操作卓) から出力を行ってください。

- 9) 送信機のDMX(緑LED)が点灯しているかを確認してください。
DMX1にコネクタ接続した信号は、DMX1⑳ (緑LED) で確認し、DMX2にコネクタ接続した信号は、DMX2㉑ (緑LED) で確認します。
(DMX3㉒、DMX4㉓に接続した場合も同様です)

●DMX信号が入力されないとDMX (緑LED) は点灯しません。

- 10) 電波送信の確認は、送信機のCHECK㉔ (黄LED) が点滅しているかを確認してください。
(P.15「LEDモニタの機能説明」をご参照ください。)



<受信機の使用法>

■設置方法

●受信機の設置場所も送信機の見通せる場所に設置してください。

※受信機の設置方法は、「置き」と「吊り」の2種類あります。

【置きの場合】

- 1) 受信機を水平な場所に置き、アンテナ①を送信機のアンテナ①と平行になるように立ててください。

●アンテナ①は本体に対し180°までが可動範囲です。
無理をすると破損する場合があります。

【吊りの場合】

●受信機本体の方向を変える場合は、決して落下防止蝶ボルト②⑥をゆるめないでください。

- 1) ハンガーのダボ固定ハンドル②⑤と落下防止蝶ボルト②⑥を反時計回りにまわしてゆるめます。

- 2) ダボ受け穴②⑦を受信機のダボ①⑧が見えなくなるまで差し込みます。

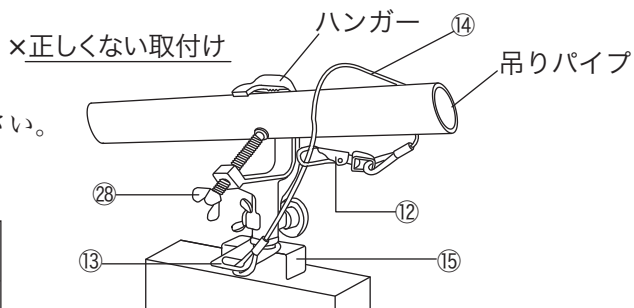
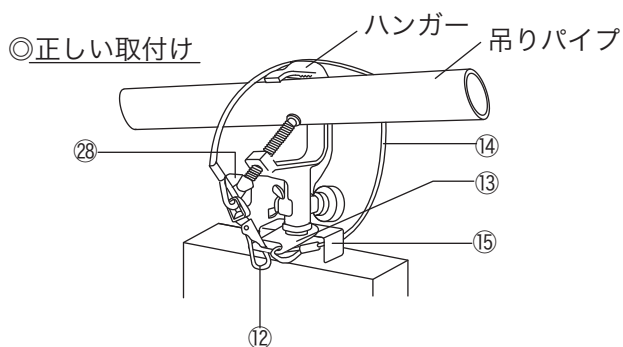
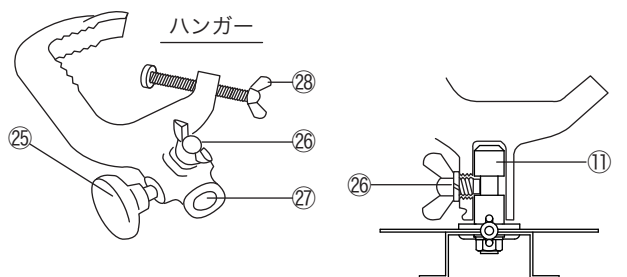
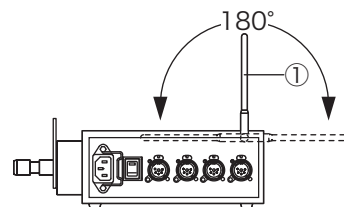
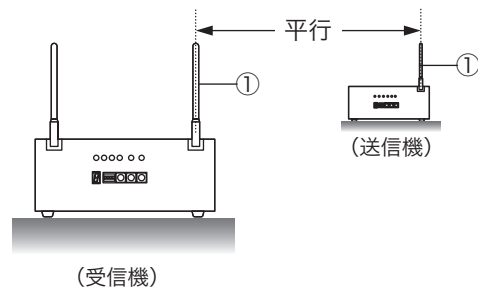
- 3) 落下防止蝶ボルト②⑥を、スプリングワッシャが平らになるまで時計回りにまわします。ハンガーを持ち、「落下防止が働いている」ことを確認します。

- 4) ダボ固定ハンドル②⑤を時計回りにまわして、ダボ①⑧を固定します。

- 5) ハンガーのハンガー固定蝶ボルト②⑧を反時計回りに回しゆるめ、パイプに取付ける幅をとります。

- 6) 受信機の落下防止ワイヤ④⑭をダボ取付金具④⑮に潜らせ、吊りパイプにかけて（正しい取付け図参照）、スナップフック④⑫をスナップフック受金具④⑬に確実に取付けます。

※スナップフック④⑫を落下防止ワイヤ④⑭に掛けないでください。



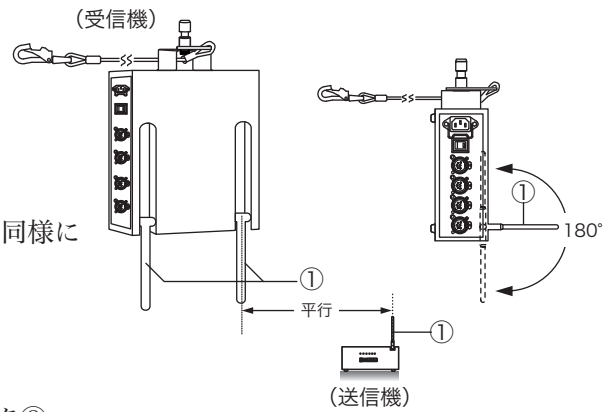
⚠ 注意

一度受信機を落下させワイヤが機能を果たした場合は、必ずその落下防止ワイヤ及びスナップフック受金具は交換してください。屈曲や素線断線等、ワイヤに異常がある場合も交換してください。

7) 受信機のアンテナ①は、送信機のアンテナ①と平行になるようにセットしてください。

●アンテナ①は本体に対し180°までが可動範囲です。無理をすると破損する場合があります。

8) 複数台の受信機を設置する場合は、1)～7)の手順と同様に接続してください。



■接続方法

1) DMXケーブルのオス側⑳を受信機のDMX-OUTコネクタ⑧ (DMX1～DMX4) の外周の突起に合わせて接続します。

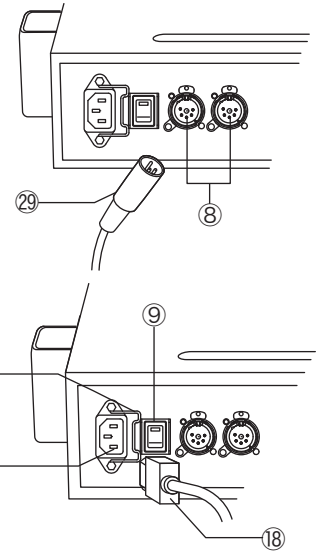
●DMX1～DMX4を使用する場合は、制御機器の系統を確認し接続してください。

2) DMXケーブルのメス側を制御する機器のDMX入力コネクタに接続します。

3) AC電源コードの接続は、抜け止め金具⑩を開いた状態で電源コード用インレット⑩に電源コードのメス⑱を接続し、抜け止め金具⑩を閉じてしっかりと固定します。

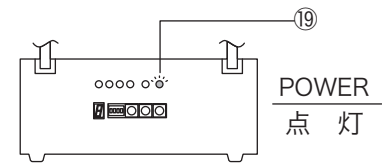
●送信機の電源が入っている場合は、受信機の電源を入れた時に制御機器 (ムービング、カラーチェンジャなど) が動き出す場合がありますので注意してください。

4) 電源コードのオスプラグをAC100V電源に接続し電源スイッチ⑨を押してください。



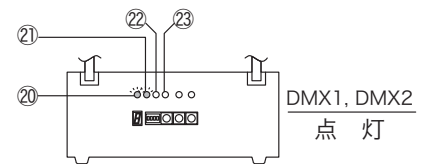
【注意】 調光回路から接続する場合は、調光出力を100%にしてください。100%以外で使用すると不具合の原因となります。

5) 電源の確認は、受信機のPOWER⑲ (緑LED) が点灯します。



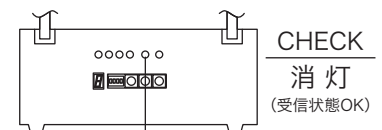
6) 送信機からのDMX信号の受信確認は、任意の制御機器 (調光操作卓) から出力を行ってください。

7) 受信していれば、受信機のDMX1⑳または、DMX2㉑ (緑LED) が点灯します。送信機のDMX1にコネクタ接続した信号は、DMX1⑳ (緑LED) で確認し、送信機のDMX2にコネクタ接続した信号は、DMX2㉑ (緑LED) で確認してください。(DMX3㉒、DMX4㉓に接続した場合も同様です)



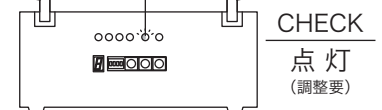
●DMX信号が入力されないとDMX (緑LED) は点灯しません。

8) 受信状態は、CHECK㉔ (黄LED) が消灯しているのを確認してください。※わずかに点灯している場合がありますが、受信状態に問題はありません。



●CHECK㉔ (黄LED) の点灯割合が多い場合は、受信状態の調整が必要です。本体の向きを調整して点灯割合が少なくなるところで固定してください。

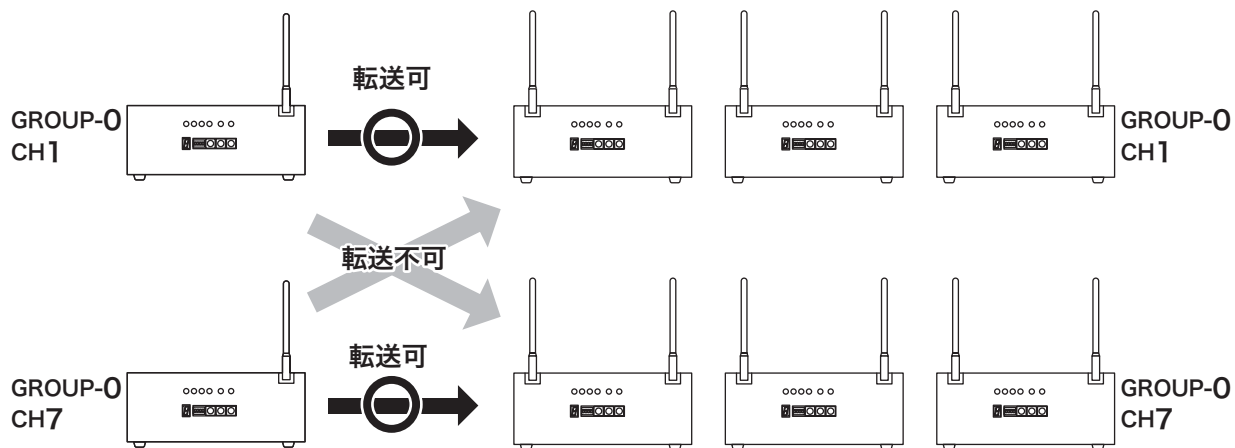
(P.15「LEDモニタの機能説明」をご参照ください。)



<動作種別 固定CH動作・GROUP動作>

■固定CH動作

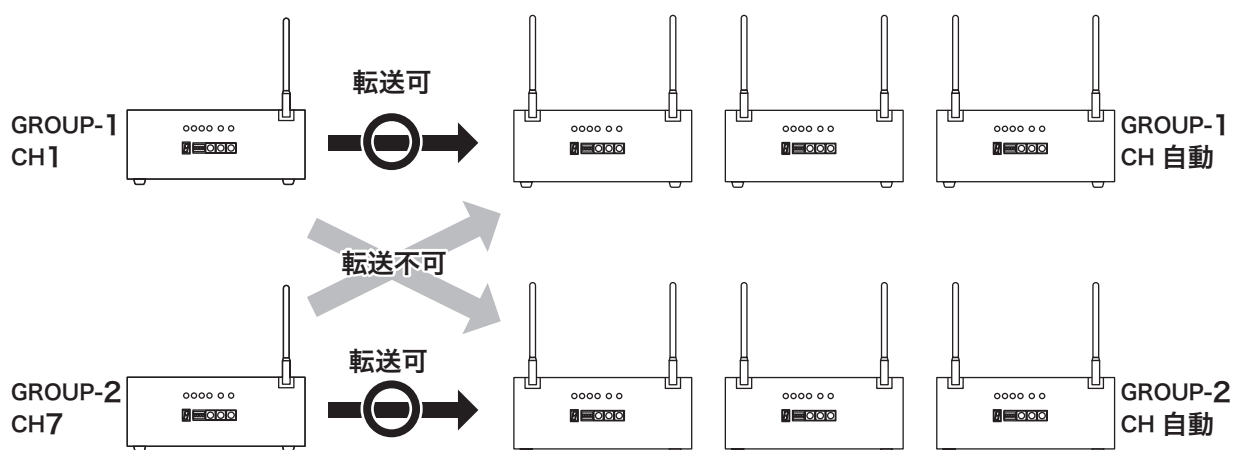
- 送受信機共に同一のCH設定で転送することができます。
送信機と受信機は、同一GROUP“0”の同一CHに設定してください。



【注意】 同一エリア内で送信機を複数使用する場合は、3～4CH空けてください。

■GROUP動作

- 特定のGROUPで通信することができ、送信機がCHを決めます。
 - ・送信機と受信機は、同一GROUP“1～E”に設定してください。
送信機のみCHを指定し、受信機のCHは設定の必要はありません。（受信機は自動CH設定）

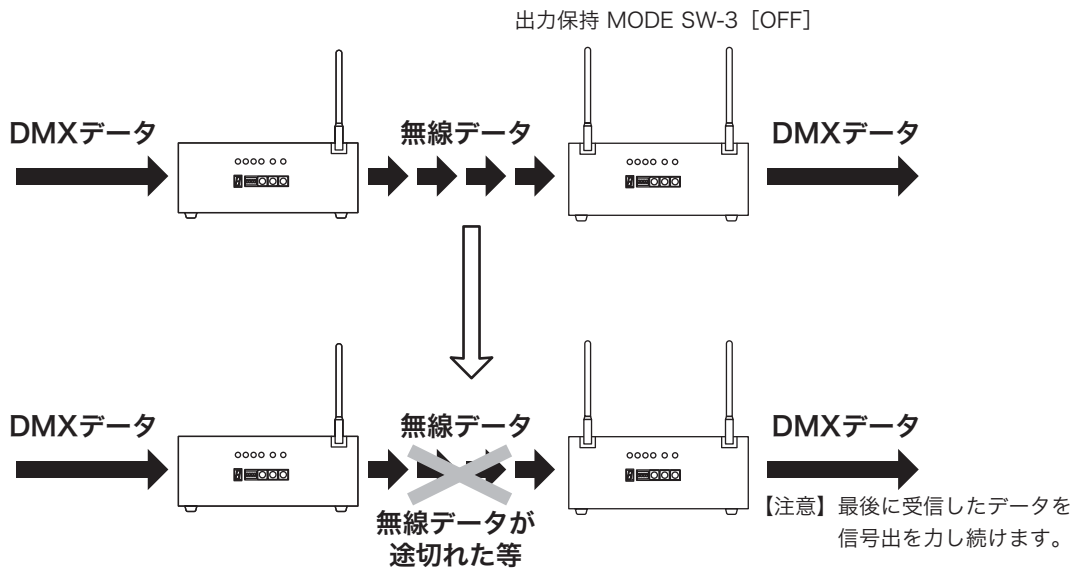


【注意】 同一エリア内で送信機を複数使用する場合は、3～4CH空けてください。

<DMX出力保持・非保持>

■DMX出力保持動作

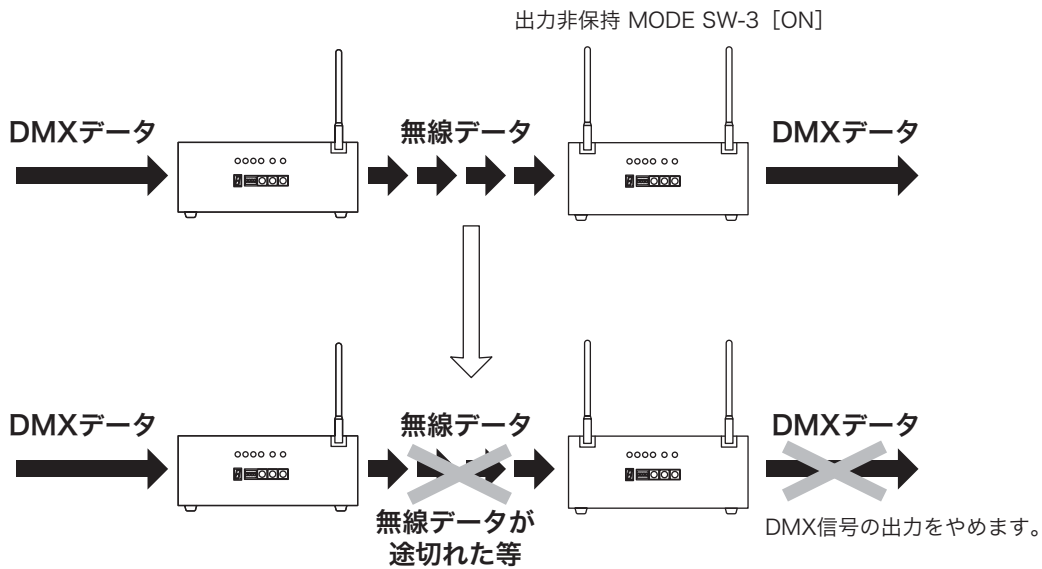
- 無線データがなくなっても、DMX信号を出力し続けることができます。



【注意】送信機が同期動作なら900msのタイミング、非同期動作なら受信機で設定したタイミングで出力。

■DMX出力非保持動作

- 無線データがなくなったら、DMX信号の出力をやめます。

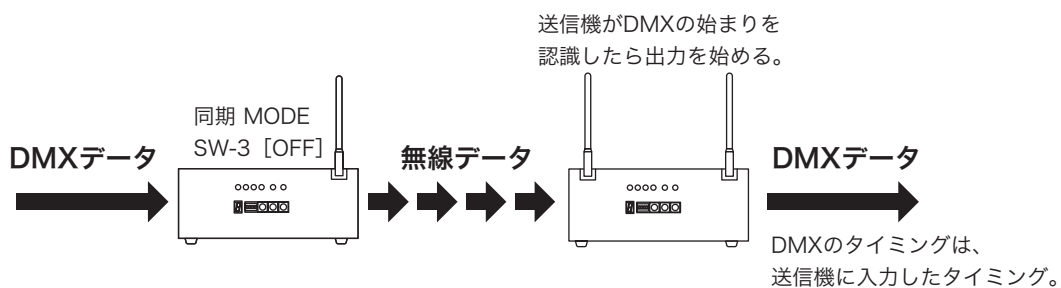


<同期・非同期>

- ・送信機は基本的に同期モードで使用することを推奨いたします。(MODE SW-3 [OFF])

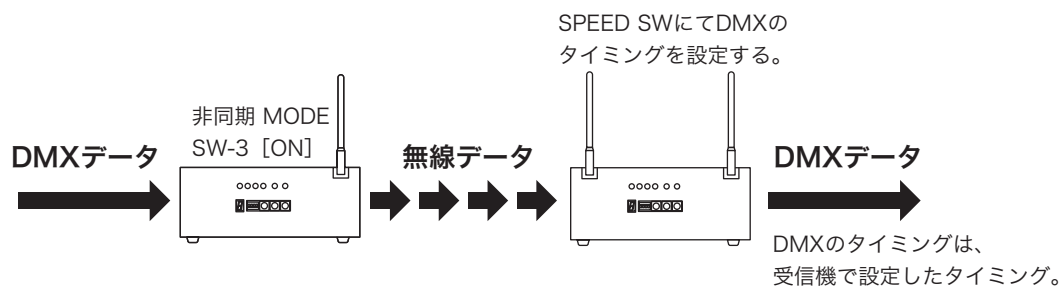
■同期動作

- 送信機に入力したDMXのタイミングでDMX信号を出力することができます。



■非同期動作

- 受信機で設定したDMXのタイミングでDMX信号を出力することができます。

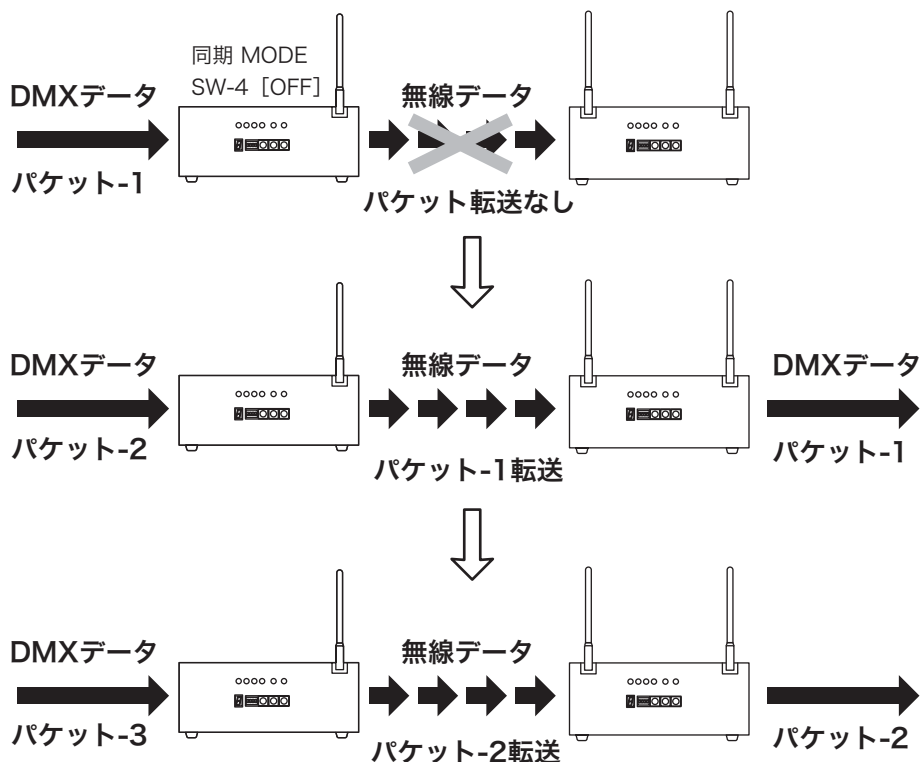


<パケット転送>

・パケットとは、DMX信号のブレイクから次のブレイクまでの間の一連のデータのまとまりのことです。

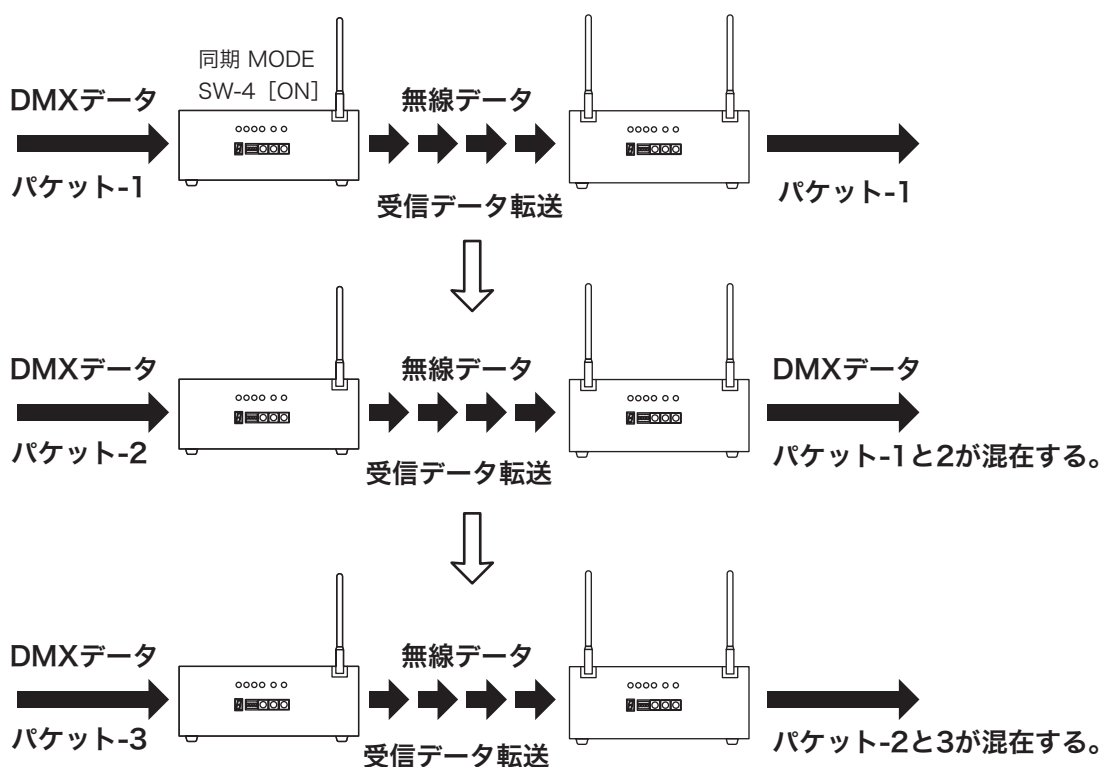
■パケット転送動作

- 送信機が受信するDMXデータを、パケット単位に無線で転送するので、前後のパケットと混在しませんが、1パケット分データが遅れます。

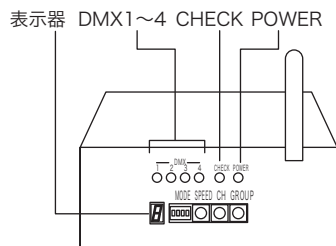


■非パケット転送動作

- 送信機が受信するDMXデータを随時無線で転送するので、前後のパケットが混在しますが、1パケット分データが遅れることはありません。

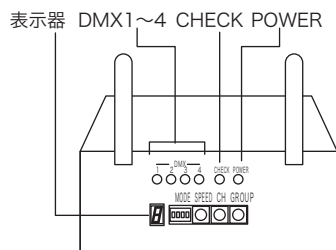


<LEDモニタの機能説明>



《送信機》

| 名称 | 点灯色 | 機能説明 |
|--------|-----------|--|
| POWER | 緑 | 電源ON |
| | 赤 | 他のCHの電波を受信。明るいほど電波が強い。 (本体で送信していないとき有効) ・明るく点灯 現在、セレクトされているCH (周波数帯) が他で使用されている。 電解強度は強い。 ・少し点灯 現在、セレクトされているCH (周波数帯) が他で使用されているが、 電解強度は弱い。 ※他の機器のCH切替えが早いと点滅に見える。 |
| CHECK | 黄 | DMXが入力されて電波を送信または[MODE]が 送信テスト(C~F) に設定されている。 スピードを切替えると点滅も変化する。 (電波で送る送信回数が多いと点滅が速くなる) |
| DMX1~4 | 点灯 | DMXのポケット入力タイミングが早いと点灯に見える。 |
| | 点滅 明るさ | DMXのポケット入力タイミングが遅くなると点滅スピードも遅くなる。 DMXのポケット内のCH数に比例している。(CH数が少ないと暗い) |
| | 赤 | 送信テスト中 |
| 表示器 | 通常時 | 無線ch番号を表示。本機CH [0] は無線LAN [1ch] と同じとなる。 |
| | SW変更時 | 変更したときの値を約2秒程表示し、無線CH表示になる。 |



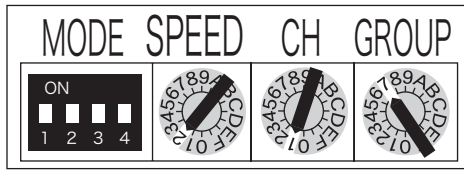
《受信機》

| 名称 | 点灯色 | 機能説明 |
|--------|-----------|---|
| POWER | 緑 | 電源ON |
| | 橙 | 受信電波が強いほど赤くなる。 |
| CHECK | 黄 | エラー発生により点灯し、エラーが多くなると 点灯割合が多くなる。 |
| DMX1~4 | 緑 | 電波を受信しDMXを出力中 |
| | 赤 | 電波は途切れたが保持したDMXを出力中 (DMX出力を保持する設定にしたとき：[MODE SW3-OFF]) |
| | 消灯 | 設定された無線ch帯に電波が存在しない、出ていない、 届いていない、途切れた等。 (DMX出力を保持しない設定にしたとき：[MODE SW3-ON]) |
| 表示器 | SW変更時 | 変更したときの値を約2秒程表示し、無線ch表示になる。 |
| | 固定CHモードの時 | CHのsw状態 (GROUP-SW:0) |
| | グループモードの時 | 送信機のCHのsw状態 (GROUP-SW:1~E) |

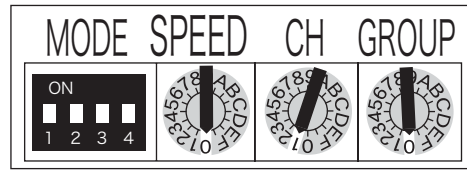
<各種設定スイッチの機能説明>

- 電源のOFF/ONを行う必要がある場合。
 - ・送受信機の設定を変更して正常に動作しない時。

《送信機》



《受信機》



●モードSW

《送信機》

- ・SW-1
 - [OFF]：送受信機が同一グループ番号（[0]以外）設定の時に受信機の表示灯が点灯します。
 - [ON]：消灯します。
- ・SW-2
 - [OFF]：予約。（[ON]にしないでください）
- ・SW-3
 - [OFF]：送信機に入力したDMXのタイミングで受信機はDMX出力します。
 - [ON]：受信機自身のタイミングでDMX出力します。
- ・SW-4
 - [OFF]：送信機はDMXパケット全体が入力されてから無線転送します。

《受信機》

- ・SW-1
 - [OFF]：送受信機が同一グループ番号（[0]以外）設定の時は送信機の設定に準じ、（[0]）設定の時は点灯します。
 - [ON]：無条件に消灯します。
- ・SW-2
 - [OFF]：予約。（[ON]にしないでください）
- ・SW-3
 - [OFF]：受信機は最後に受信したデータをDMX出力し続けます。
 - [ON]：受信がなければDMX出力をやめます。
- ・SW-4
 - [OFF]：DMX出力は通常のタイミング。
 - [ON]：DMX1～4の出力タイミングが1/2になります。

| 送信機 | | |
|---------|----------|----------|
| Mode Sw | OFF | ON |
| SW-1 | 受信機の表示点灯 | 受信機の表示消灯 |
| SW-2 | — | — |
| SW-3 | 同期動作 | 非同期動作 |
| SW-4 | パケット転送 | 非パケット転送 |

| 受信機 | | |
|---------|--------|--------|
| Mode Sw | OFF | ON |
| SW-1 | 表示点灯 | 表示消灯 |
| SW-2 | — | — |
| SW-3 | 出力保持 | 出力非保持 |
| SW-4 | WAITなし | WAITあり |

【注意】 受信機の表示消灯でも、DMXコネクタ横の表示は消えません。

●Speed SW

《送信機》

- ・データの転送速度を設定
- ・グループモード時は1Mbps設定にしても2Mbpsのスピードになります。
- ・基本を5.5Mbps“2”を推奨します。スピードが速くなるほど到達距離は短くなります。
- ・送信テストモード時、DMX1は512CHすべて“0”、DMX2～4は入力データを転送します。

《受信機》

- ・DMX出力タイミングの設定
(受信機 of データ転送速度は自動セレクトになります)
- ・送信機でSW-3 OFF (同期設定) にしている場合は、SWは「0、4、8、C」のいずれかにしてください。
- ・送信機でSW-3 ON (非同期) の場合に限り、DMX出力タイミングを変更することができます。

| 送信機 | | |
|----------|----------|--------------------------------------|
| Speed Sw | 動作 | スピード |
| 0 | | 2Mbps (グループモード時) 1Mbps (固定chモード時) |
| 1 | | 2Mbps |
| 2 | | 5.5Mbps 14ch無効 |
| 3 | | 11Mbps 14ch無効 |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |
| 7 | | |
| 8 | | |
| 9 | | |
| A | | |
| B | | |
| C | 送信テストモード | 2Mbps (グループモード時) 1Mbps (固定chモード時) |
| D | 送信テストモード | 2Mbps |
| E | 送信テストモード | 5.5Mbps 14ch無効 |
| F | 送信テストモード | 11Mbps 14ch無効 |

| 受信機 | | |
|----------|-----------------|-----------------------|
| Speed Sw | 動作 | |
| 0 | DMX出力タイミング 25ms | 送信機[SW-3 ON] (非同期の場合) |
| 1 | | |
| 2 | | 予約:使用しないでください。 |
| 3 | | |
| 4 | DMX出力タイミング 30ms | 送信機[SW-3 ON] (非同期の場合) |
| 5 | | |
| 6 | | 予約:使用しないでください。 |
| 7 | | |
| 8 | DMX出力タイミング 40ms | 送信機[SW-3 ON] (非同期の場合) |
| 9 | | |
| A | | 予約:使用しないでください。 |
| B | | |
| C | DMX出力タイミング 50ms | 送信機[SW-3 ON] (非同期の場合) |
| D | | |
| E | | 予約:使用しないでください。 |
| F | | |

※受信機のSpeed SWは、送信機で同期、非同期の設定に関わらず「0、4、8、C」以外には設定しないでください。

●CH切替えSW

- ・固定CHモードでは、送信機と受信機は同一CHに設定してください。
- ・グループモードでは、送信機のみCHを設定してください。
送信機と同一グループの受信機が自動でCHを設定します。
50ms毎に受信できなければ、同じグループをスキャンし、受信すると約4秒間は、そのCHを保持します。
- ・同一エリア内で複数使用する場合は、3～4CH空けてください。
比較的狭いエリアではパターンA
比較的広いエリアではパターンB
- ・送信機のPOWERのLED（赤）の点灯状態を確認しながら設定してください。
送信機にはDMXを入力せず、テストモードにしている状態で行ってください。
多少、LED（赤）が点灯していても問題ありません。

| 送信機 | | | パターンA | パターンB |
|-------|----|-------------------------|-------|-------|
| CH Sw | CH | 中心周波数 | | |
| 0 | 1 | 2.412 | ○ | ○ |
| 1 | 2 | 2.417 | | |
| 2 | 3 | 2.422 | | |
| 3 | 4 | 2.427 | | ○ |
| 4 | 5 | 2.432 | ○ | |
| 5 | 6 | 2.437 | | |
| 6 | 7 | 2.442 | | ○ |
| 7 | 8 | 2.447 | | |
| 8 | 9 | 2.452 | ○ | |
| 9 | 10 | 2.457 | | ○ |
| A | 11 | 2.462 | | |
| B | 12 | 2.467 | | |
| C | 13 | 2.472 | ○ | ○ |
| D | 14 | 2.484 5.5M, 11Mbpsには非対応 | | |
| E | - | — | — | — |
| F | - | — | — | — |

●GROUP SW

・固定ch動作

送信機と受信機は、同じGROUP“0”に設定してください。

送信機と受信機は、同じCHに設定してください。

・GROUP動作

送信機と受信機は、同じGROUPに設定してください。(GROUP“1～E”)

送信機のみCHを指定し、受信機のCHを設定する必要はありません。(受信機は自動CH設定)

| 送信機 | | |
|----------|---------|------------------|
| GROUP Sw | 動作 | |
| 0 | 固定CH動作 | 送受信機共に同じCHに合わせる。 |
| 1 | Group-1 | GROUP動作 |
| 2 | Group-2 | |
| 3 | Group-3 | |
| 4 | Group-4 | |
| 5 | Group-5 | |
| 6 | Group-6 | |
| 7 | Group-7 | |
| 8 | Group-8 | |
| 9 | Group-9 | |
| A | Group-A | |
| B | Group-B | |
| C | Group-C | |
| D | Group-D | |
| E | Group-E | |
| F | — | 予約：使用しないでください。 |

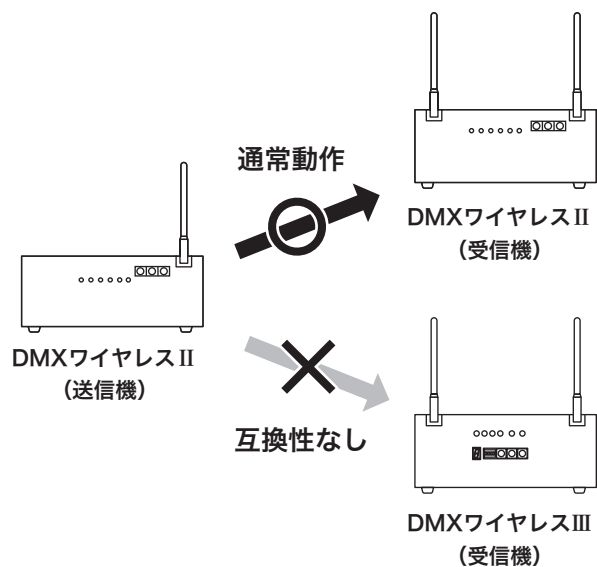
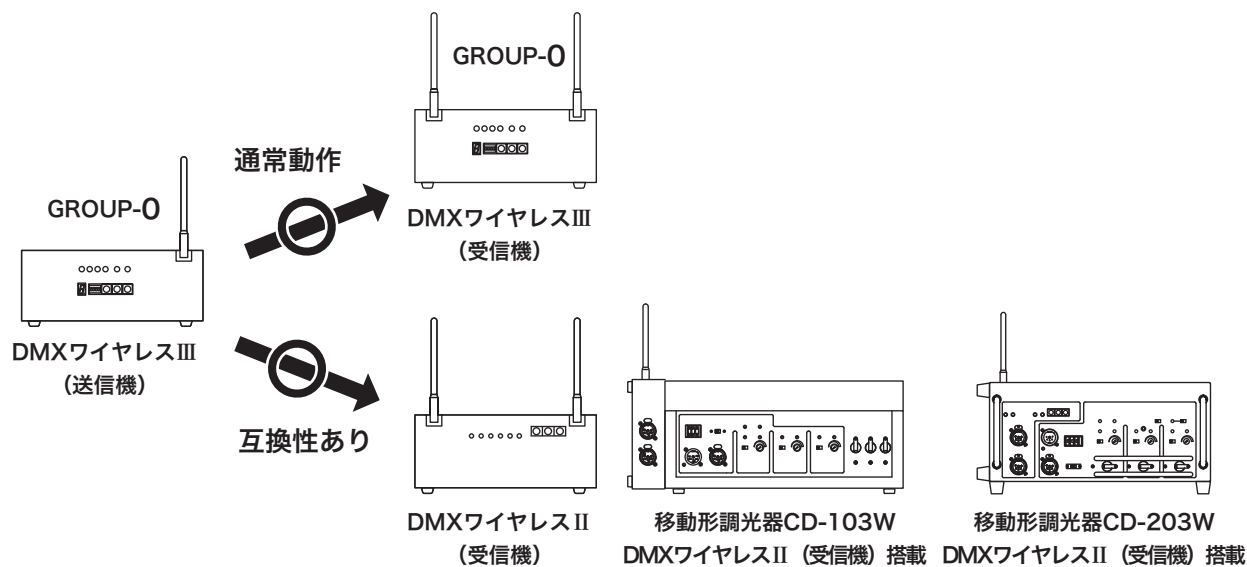
| 受信機 | | |
|----------|---------|--------------------------------|
| GROUP Sw | 動作 | |
| 0 | 固定CH動作 | 送受信機共に同じCHに合わせる。 |
| 1 | Group-1 | 送信機と同じGROUPに設定した 受信機のみが受信可能 |
| 2 | Group-2 | |
| 3 | Group-3 | |
| 4 | Group-4 | |
| 5 | Group-5 | |
| 6 | Group-6 | |
| 7 | Group-7 | |
| 8 | Group-8 | |
| 9 | Group-9 | |
| A | Group-A | |
| B | Group-B | |
| C | Group-C | |
| D | Group-D | |
| E | Group-E | |
| F | — | |

| 送信機 | | |
|-----------|---------|---------------|
| 表示器 詳細 | 通常時 | CHのsw番号表示 |
| | パワーON時 | バージョン表示 |
| | 操作sw変更時 | sw状態表示 (2秒点滅) |

| 受信機 | | |
|-----------|---------|---------------|
| 表示器 詳細 | 通常時 | CHのsw番号表示 |
| | パワーON時 | バージョン表示 |
| | 操作sw変更時 | sw状態表示 (2秒点滅) |

<DMXワイヤレスIII（本機）とII（旧機）の動作互換>

・“互換性あり”の動作は、ワイヤレスIIIでの固定CH動作が対象となり、GROUP動作では互換性はありません。



日常点検

■日常点検と整備のお奨め

お買い求めいただいた装置の性能を末長く維持し安全を確保するために、下記の日常点検項目に基づき、点検及び処置をしてください。

——— 日常点検項目および処置 ———

| 分類 | 点検項目 | 処置 | | | 修理 依頼 |
|--------------|-------------------------|----|----|----|----------|
| | | 清掃 | 整備 | 交換 | |
| 本体 | 異音、異臭はないか。 | | | | ○ |
| | 結露の形跡はないか。 | | | | ○ |
| | 脱落した部品はないか。 | | | | ○ |
| | ネジ類に緩みはないか。 | | ○ | | |
| ※落下防止 ワイヤ | スナップフック受金具に歪みなどの損傷はないか。 | | | | ○ |
| | ワイヤにほつれ、キンクなどの損傷はないか。 | | | | ○ |
| | スナップフックに伸びなどの損傷はないか。 | | | | ○ |
| | ダボのゆるみはないか。 | | | | ○ |
| プラグ | 変色、損傷はないか。 | | | ○ | |
| | プラグの着脱は良好か。 | | | ○ | |
| 電源コード | 被覆に傷、変色、亀裂などはないか。 | | | | ○ |

※落下防止ワイヤの修理は、ワイヤおよび金具の一式交換となります。

修理を依頼される前に

■原因と対策

お買い求めいただいた装置に異常が発生しましたら、以下の表を参考に対応してください。
なお、対応不可能な症状の場合は、弊社のサービスセンターにご連絡ください。

| 症状 | 原因 | 対策 |
|-----------------|-----------------------------------|-------------|
| POWER LEDが点灯しない | 送信機の電源コードが接続されていない (ゆるみ、はずれ) | 確実に接続してください |
| | 受信機の電源コードが接続されていない (ゆるみ、はずれ) | 確実に接続してください |
| DMX信号による制御できない | 送信機のDMXケーブルが接続されていない (ゆるみ、はずれ) | 確実に接続してください |
| | 受信機のDMXケーブルが接続されていない (ゆるみ、はずれ) | 確実に接続してください |

有寿命部品[交換部品]について

■有寿命部品[交換部品]の交換について

お買い求めいただいた装置を安心してお使いいただくために、下記の部品を定期的に交換していただくことをおすすめします。

なお、部品交換は、弊社のサービスセンターにご連絡ください。

■交換の目安

- 1.部品の寿命は、使用年数だけではなく使用環境・使用頻度等により異なります。
- 2.保守メンテナンス時の診断が必要になりますが、目安を示すと下記のとおりです。

有寿命部品リスト

| 有寿命部品名 | 交換の目安 | 寿命時に発生する症状例 |
|---------------|--------|------------------------------|
| スイッチングレギュレーター | 約5年 | ・制御ができなくなる ・LEDの表示ができなくなる |
| プリント基板 | 約6年 | ・制御ができなくなる |
| 無線モデム | 約5年 | ・制御ができなくなる |
| 電源コード | 約5年 | ・被覆が硬化、絶縁低下、漏電する可能性あり |
| 落下防止ワイヤ | 約8～10年 | ・装置が落下する可能性あり |

仕様

| | |
|----|-------------------------|
| 名称 | DMXワイヤレスⅢ |
| 型式 | 送信機/SS34DXT、受信機/SS34DXR |

【無線仕様】

| | |
|------------|---------------------------|
| 特定無線設備の種別 | 2.4GHz帯小電力データ通信システム |
| 電波型式 | G1D |
| 周波数 | 2412~2484MHz (14ch設定可能) |
| 占有帯域幅 | 22MHz |
| 送信出力 (送信機) | 10mW/MHz以下 (但しアンテナの利得を含む) |
| 到達距離 | 50~100m (但し環境条件により異なる) |

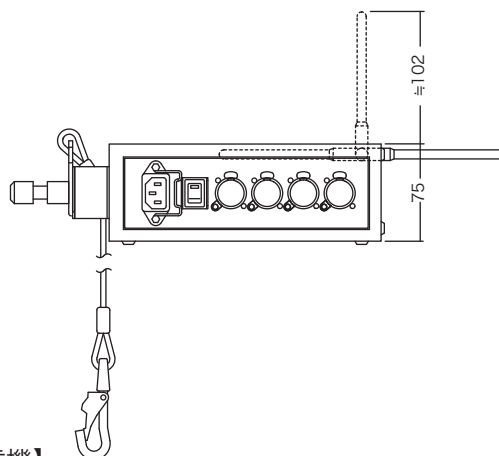
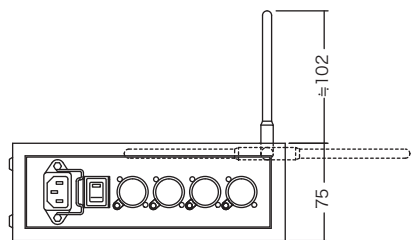
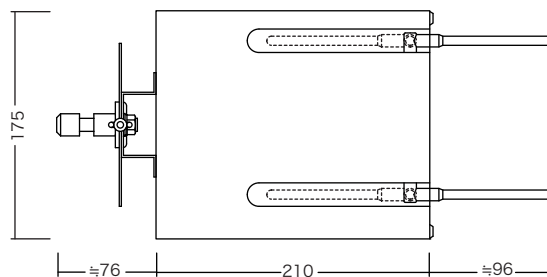
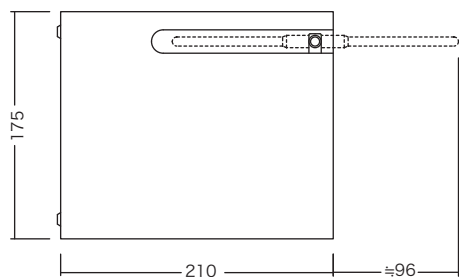
「技術基準適合証明」取得済み

【機器仕様】

| | |
|-------|---|
| 信号方式 | DMX512/1990 4系統 |
| 電源 | AC100V±10% 50/60Hz |
| 消費電力 | 10W |
| 電源コード | コード長2m、平行接地極付15Aプラグ付 |
| 周囲環境 | 周囲温度：0°C~40°C 相対湿度：45%~85% (結露しないこと) |
| 質量 | 送信機：1.7kg 受信機：2.1kg |

◆オプション：ハードケース

外形寸法 (単位：mm)



【送信機】

【受信機】

弊社連絡先

警告表示・銘板が読みにくくなったり、はがれそうになったときは、すぐに貼り替えて修復してください。
また、商品のお問い合わせやアフターサービスは、最寄りのサービスセンター・支店等にご連絡ください。

東京サービスセンター TEL 03-3607-2166

サービスセンター フリーダイヤル 0120-092-714

記載の製品に関しましては、改良の為、予告なく仕様変更を行うことがありますので予めご了承ください。

株式会社 松村電機製作所

本社 〒113-0031 東京都文京区根津2-12-1 TEL03-3821-6169(代) FAX03-5685-3144

東京支店 〒110-0008 東京都台東区池之端2-7-17井門池之端ビル4階 TEL03-3821-6161(代) FAX03-3821-6186

関西支店 〒530-0043 大阪市北区天満2-12-16 TEL06-6352-0245(代) FAX06-6352-2972

中部支店 〒460-0008 名古屋市中区栄5-28-12名古屋若宮ビル TEL052-265-1591(代) FAX052-265-1590

九州支店 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-15-20NOF博多駅前ビル TEL092-451-3831(代) FAX092-451-3829

東北支店 〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-6-2KJビルディング TEL022-221-7791(代) FAX022-267-6892

中国支店 〒730-0032 広島市中区立町1-2-0NREG広島立町ビル TEL082-245-8161(代) FAX082-245-1537

札幌営業所 〒060-0063 札幌市中央区南三条西3-8-1エテルノビル TEL011-210-9561(代) FAX011-210-9562

沖縄営業所 〒900-0033 沖縄県那覇市久米1-15-1上山ビル TEL098-860-6377(代) FAX098-860-6392

M.V.F. 〒110-0008 東京都台東区池之端2-7-17井門池之端ビル4階 TEL03-3821-6161(代) FAX03-3821-6186

(テレビ事業部)
サービスセンター 〒125-0052 東京都葛飾区柴又3-5-6 TEL03-3607-2166(代) FAX03-3627-2505

2013.8_1